沿　　革

福井市は、九頭竜、足羽、日野の三大河川の扇状地として福井平野に発達してきた。

福井平野は、今から3000年ほど前の縄文時代後期から晩期にかけて、河川活動によって形成されたといわれる沖積平野で、弥生時代には、既に農耕可能な平野になっていたといわれる。

また、約1500年前、この地に生を受けた継体天皇の治山治水事業によって、一面の沼地が豊かな沃野に生まれ変わったともいわれている。その後、文化の発達に伴って地勢的関係から、北陸道の要衝として栄えるようになった。

中世には、市街地の南東にある一乗谷に居を構えた朝倉氏が５代にわたり、越前の国守として広大な地域を支配した。当時の一乗谷は小京都とうたわれ栄華を極めたといわれるが、その居城は、天正元年（1573年）に焼失したままの姿を今日までも残し、日本中世史上極めて貴重な遺跡として、昭和46年７月、国の特別史跡に指定され、目下保存整備の事業が進められている。

市の中心部は、室町時代のころには北の庄と呼ばれ、街づくりの始まりは柴田勝家の城づくりが始まりといわれている。その後は、丹羽長秀、堀秀政らがこの地に城主として任ぜられた。

徳川家康の天下平定後は、その次男、結城秀康を68万石の藩主とした。福井の地名については、北庄から福居となり、３代藩主忠昌のとき、福井と改められた。幕末当時の藩主は名君の誉れ高い松平慶永（春嶽）公で、その治下から、橋本左内、由利公正、橘曙覧、笠原白翁など幾多の人材を輩出した。また、慶永は産業振興事業として織物を取り入れ、これが織物王国福井の礎となった。

明治22年に市制が敷かれ福井市となったが、当時の人口は39,863人、面積は4.43平方キロメートルであった。

以来、福井県において政治、経済、文化の中心都市として発展を続けてきている。その間、昭和20年７月の空襲、昭和23年６月の福井大震災と再度にわたって全市が壊滅し致命的な打撃を受け、さらに水害、風害と幾多の災難に見舞われたが、市民の不屈の復興への意欲により、これを乗り越え、今日の『不死鳥のまち福井』を築き上げた。

さらに、国際化社会に対応すべく、海外４市、国内２市と姉妹友好都市を提携し国内外で活発な交流を行い、地球環境にやさしい福井を目指し平成11年10月には環境管理国際規格「ISO14001」の認証を取得した。また、平成12年11月には特例市に移行し、同18年２月１日には、日常生活圏を同じくする美山町、越廼村、清水町の３町村と合併して新「福井市」が誕生した。平成31年４月１日には、市民に最も近い基礎自治体として、さらなる市民サービスの向上と人口減少社会や地域間競争に打ち勝つ活力ある地域づくりを実現するため、中核市に移行した。令和６年３月16日には北陸新幹線が福井で開業し、首都圏との結びつきも強くなった。

現在、地域の特色を生かしながら日本海側の主要都市としてまちづくりを進めている。

ま　ち　の　あ　ゆ　み

明治22　市制施行〈4.1〉、第１回市会開会〈5.1〉、市庁舎を元桜小学校に置き、事務を開始（職員38人）
　　25　市会議員定期半数改選（６年任期３年ごとに改選）
　　27　勅令第15号消防組規則により福井消防組を設置（１組８部337人）
　　29　北陸線（敦賀～森田間）開通〈7.15〉
　　31　福井測候所設立（天気予報開始）
　　32　市内に初めて電灯つく、福井新聞発行
　　33　市内橋南地区大火（1,800戸焼失）
　　35　市内橋北大火災（3,300戸焼失）
　　36　市内に初めて電話開通
　　42　市立図書館開館
　　45　市営ガス事業開始〈2.9〉
大正３　越前電鉄（福井～大野間）開通

大正13　福井高等工業学校設立〈4.1〉、上水道市内通水〈8.1〉
14　福武鉄道（福井～武生間）開通〈7.26〉、市内バス開通、福井市章制定〈9.28〉、日本赤十字社福井支部病院開院
昭和３　三芦電鉄（福井～三国間）開通〈12.30〉
7　世界最初の人絹取引所開設〈5.14〉
8　福井放送局開設〈5.13〉、福武線市内乗り入れ〈10.15〉
10　市庁舎、公会堂（現在地）落成〈5.22〉
12　上北野塵芥焼却場設置
14　市営葬斎場落成
20　福井市空襲〈7.19〉被災率92.2%（全国一）死亡1,500人、終戦〈8.15〉
21　都市計画事業に着手〈9.10〉
22　学校給食開始、各新制中学校創立、改良下水事業着手〈11.27〉
23　下水道事業着手〈5.1〉、福井大地震〈6.28〉M7.3　死亡930人（全体3,579人）、倒壊80%、大水害〈7.25〉
25　ジェーン台風〈9.3〉、福井鉄道（駅前～田原町間）開通
27　民間ラジオ福井局開局〈3.6〉、福井復興博覧会開催（75日間）〈4.10〉、市立郷土自然科学博物館完工
28　市立郷土歴史博物館開館、水害（荒川決壊）〈7.8〉、台風13号による風水害（日野川決壊）〈9.25〉
30　食品卸売市場を田原町に移転
32　下水処理場・し尿処理施設完成
33　国民健康保険を全市に実施
34　市営体育館完成〈2.6〉、下水処理場通水式〈2.9〉、西墓地公園完成
35　青年の家開館〈4.9〉、桜橋完成、福井市環状線道路起工〈9.14〉
36　清掃センター完成、足羽山周辺総合開発事業起工〈7.15〉、第３次水源拡張事業に着工〈7.28〉
37　市庁舎別館落成〈4.25〉、東墓地完成
38　豪雪（市内積雪213㎝）〈1.30〉、新泉橋完成
39　市民憲章制定〈6.28〉
40　暴力排除安全都市宣言、勤労青少年ホーム完成、消防新庁舎落成、原目山配水池完成
42　足羽河原に市営駐車場開設
43　老人福祉センター完工、交通災害共済制度発足〈4.1〉、文化会館落成〈5.1〉、第23回福井国体開催（天皇杯獲得）〈夏季9.4～9.7・秋季10.1～10.6〉、第４回全国身体障害者スポーツ大会開催〈10.12～13〉
44　市制80周年記念式典〈4.1〉、戦災復興土地区画整理事業完成式〈4.1〉、森田支所庁舎、福祉センター竣工〈5.1〉、国民宿舎「鷹巣荘」落成〈7.7〉
45　福井坂井地区広域市町村圏事務組合発足〈4.1〉、新修福井市史第Ⅰ巻発刊〈4.1〉、福井市農業協同組合発足（17農協合併）〈8.1〉、「動物こども公園」完成〈11.1〉
46　福井地区消防組合設立（福井市・美山町・清水町・越廼村）〈11.1〉
47　東山清掃センター竣工〈1.21〉
48　上水道管理センター完成〈7.3〉、福井駅地下道開通〈10.5〉、市民福祉会館落成〈11.4〉
49　花月駐車場開設〈5.1〉、公園下駐車場開設〈9.17〉、足羽川市営駐車場閉鎖〈9.30〉、中央卸売市場開設〈10.7〉、食品卸売市場（田原町）閉鎖〈11.2〉
50　福井市森林組合発足〈4.1〉、身体障害者福祉モデル都市指定〈5.23〉、市庁舎本館落成〈6.1〉、野外趣味活動施設「鷹巣いこいの広場」開設〈7.10〉
51　ガス新工場移転落成〈3.1〉、市立図書館落成〈6.1〉、新修福井市史第Ⅱ巻発行〈9.1〉
52　大手駐車場開設〈3.23〉、二枚田幹線林道開通〈11.1〉
53　大気汚染監視用テレメーターシステム竣工〈3.30〉、足羽山公園遊園地オープン〈6.24〉
昭和54　勤労婦人センター落成〈3.26〉、市制90周年記念式典〈6.1〉、防災無線局開局〈12.27〉
55　福井文化・産業博覧会開催（73日間）〈4.19〉、シルバー人材センター設立〈10.21〉

56　豪雪（市内積雪196㎝）〈1.15〉、北部学校給食センター竣工〈3.20〉、東消防署開署〈4.10〉、日野川浄化センター起工〈7.7〉、少年自然の家開設〈7.20〉、国見岳森林公園オープン〈8.1〉

57　清明小学校開校〈4.3〉、ニューブランズウィック市と姉妹都市提携調印〈5.25〉、(社)福井市家内労働指導センター開設〈6.3〉

58　福井市計量検査所開設〈4.1〉、社西小学校開校〈4.4〉、一乗谷史跡公園センター開設〈5.15〉、西郷幹線林道開通〈10.13〉、中高年齢労働者福祉センター「サンライフ福井」開設〈12.7〉

59　新明里橋開通〈3.24〉、南部学校給食センター竣工〈3.28〉、保健センター開設〈9.25〉

60　藤島中学校開校〈4.5〉、おさごえ民家園オープン〈6.15〉、日野川浄化センター稼動〈10.8〉、フェニックスプラザ落成〈11.1〉

61　臨海消防署開署〈4.10〉、九十九橋（長寿橋）架替え完成〈5.10〉

62　社中学校開校〈4.4〉、市民スキー場完成〈12.25〉

63　開発跨線橋開通〈3.24〉、市営ジュニアグラウンド完成〈3.26〉、底喰雨水ポンプ場完成〈5.30〉、新田塚跨道橋完成〈8.27〉、コンベンションビューロー設立〈10.1〉、二枚田幹線林道全線舗装完成〈10.24〉

平成元　市制100周年記念式典〈4.24〉、一乗滝小次郎の里ファミリーパーク完成〈7.15〉、フラトン市と姉妹都市提携調印〈11.5〉、杭州市と友好都市提携調印〈11.23〉

2　記念彫刻像リズムの広場、タイムカプセル設置〈3.27〉

3　足羽山トンネル完成〈3.25〉、クリーンセンター完成〈3.28〉、東山健康運動公園オープン〈4.6〉、防災センター完成〈6.28〉、東サービスセンター開設〈8.1〉

4　福井市コミュニケーションマーク制定〈4.1〉、御屋形地区再開発事業竣工〈4.17〉、足羽ふれあいセンターオープン〈5.13〉、治水記念館竣工〈7.1〉、みどり図書館落成〈8.1〉、東体育館オープン〈8.1〉、新保健センターオープン〈10.1〉

5　児童館オープン〈4.1〉、大瀬ポンプ場通水〈4.12〉、南サービスセンター開設〈4.15〉、西体育館オープン〈6.23〉、養浩館庭園復元〈6.17〉

6　国民宿舎「鷹巣荘」温泉涌出式〈2.25〉、福井駅自転車駐車場完成〈3.25〉、すかっとランド九頭竜オープン〈4.6〉、東山健康運動公園ウォータースライダー完成〈7.20〉、福井杭州友好公園完成（曲院風荷公園内）〈11.7〉、熊本市と姉妹都市締結調印〈11.16〉、西部緑道完成〈11.18〉

7　養浩館庭園FMガイドシステム開設〈7.25〉、福井市長寿社会憲章制定〈9.15〉、環日本海フェスティバル　イン　福井〈9.29～10.1〉、福井坂井地区広域市町村圏事務組合清掃センター完成〈10.1〉

8　すこやかドーム（屋内ゲートボール場）完成〈4.1〉、本会議を市民ホールで放映（６月議会から）、広域的環境文化複合施設「YONETSU-KANささおか」完成〈10.22〉、北体育館オープン〈11.16〉、本町通り地下駐車場完成〈12.25〉

9　ロシアタンカー油流出事故発生〈1.2〉、情報公開制度スタート〈4.1〉、地域保健医療情報システムスタート〈4.1〉、指定ごみ袋制度本格実施〈4.1〉、福井城内堀公園開園〈4.29〉、中学生議会開催（中学校教育50周年記念）〈8.8〉、美術館アートラボふくい開館〈10.1〉、ポイ捨て・ふん害防止条例スタート〈10.1〉、「第17回日本文化デザイン会議’97福井」開催〈11.7～9〉

10　インターネットホームページ開設〈5.19〉、下水リサイクル公園「日野川スウェッジガーデン」オープン〈5.26〉、福井震災50周年記念事業「世界震災都市会議」開催〈6.26～28〉、ペットボトル分別回収を全市一斉に開始〈10.1〉

11　副市長（助役）２人制導入〈4.1〉、市制110周年記念事業「うらがまちづくり市民の祭典」開催〈5.29～30〉、新園芸センター完成〈9.19〉、新葬斎場「聖苑」完成〈10.1〉、「愛宕坂茶道美術館」オープン〈10.5〉、環境管理国際規格「ISO14001」認証取得〈10.27〉、議会本会議（一般質問）の模様をケーブルテレビで放映開始〈12.7〉

12　福井市こども憲章「私たちのちかい」制定〈1.1〉、街づくり会社（TMO）「まちづくり福井株式会社」設立〈2.23〉、「橘曙覧記念文学館」オープン〈4.11〉、防災ステーション完成〈9.29〉、特例市へ移行〈11.1〉

平成13　「花堂跨線橋」開通〈2.27〉、中心市街地活性化に向けたトランジットモール等の社会実験を実施〈10.12～11.4〉、国見地区特定環境保全公共下水道の供用開始〈10.17〉、少子化を考える未来創造会議in福井「第１回少子化対応推進全国フォーラム」の開催〈11.9〉、「不死鳥大橋」の開通〈11.22〉、韓国水原市との友好都市締結〈12.22〉

14　ＬＮＧサテライト基地完成〈3.18〉、第五次福井市総合計画スタート〈4.1〉、天然ガス供給開始〈4.8〉、茨城県結

城市と友好都市締結〈4.13〉、ワークプラザ竣工〈4.17〉、南体育館オープン〈5.13〉、第三セクター「えちぜん鉄道株式会社」設立〈9.17〉、福井市・鯖江市・美山町・越廼村・清水町任意合併協議会設置〈10.8〉

15　福井市・鯖江市・美山町・越廼村・清水町合併協議会設置〈6.1〉議会100条調査特別委員会「福井市中央卸売市場ＰＲ館建設計画調査特別委員会」設置〈9.29〉

16　郷土歴史博物館移転新築オープン〈3.21〉、まちなか文化施設「響きのホール」オープン〈6.12〉、福井市・鯖江市・美山町・越廼村・清水町合併協議会廃止〈6.30〉、福井豪雨発生〈7.18〉、市民栄誉賞第１号 高田稔浩氏〈10.5〉、「住みたくなるまちづくり全国交流大会」開催〈10.8～10〉、福井市・美山町・越廼村・清水町による「福井圏域合併協議会」設置〈11.22〉

17　市庁舎第２別館（旧ＮＴＴ西日本福井支店）開設〈3.28〉、福井豪雨により被災したみどり図書館が復旧開館〈3.30〉下郷・上郷両小学校の統合校として「本郷小学校」開校〈4.1〉、新「ＪＲ福井駅」開業〈4.18〉、北陸新幹線福井駅着工〈6.4〉、足羽山公園西墓地陥没事故発生〈8.16〉、「日本女性会議2005ふくい」開催〈10.7～8〉「第20回国民文化祭・ふくい2005」開催〈10.22～11.3〉

18　美山町、越廼村、清水町と合併〈2.1〉

19　手寄再開発ビル「アオッサ」（「福井市地域交流プラザ」）がオープン〈4.19〉、一乗谷朝倉氏遺跡出土品2,343点が国の重要文化財に指定〈6.8〉「第18回男女共同参画全国都市会議inふくい」開催〈11.8～9〉

20　免鳥長山古墳、国の史跡に指定〈3.28〉、御廊下橋復元完成式〈3.29〉、森田配水搭「マイアクア」通水式〈4.24〉福井フェニックススタジアム竣工式〈6.20〉、福井市企業局技術継承センターを開設〈10.1〉、足羽川頭首工完成記念式典〈11.15〉、福井市名誉市民南部陽一郎氏ノーベル賞受賞〈12.10〉、木田橋開通式〈12.14〉

21　泉橋開通式〈3.1〉、中角歩道橋開通式〈3.22〉、足羽山公園開園100周年記念式典〈4.5〉、福井駅西口・東口交通広場の暫定供用〈4.30〉、第60回全国植樹祭の福井開催及び天皇皇后両陛下の行幸啓〈6.7〉、中国杭州市における友好都市提携20周年記念式典への参加〈11.21～24〉

22　一乗あさくら水の駅オープン〈5.7〉、フラトン市における姉妹都市提携20周年記念式典への参加〈5.14～18〉、日本ＡＰＥＣエネルギー大臣会合の福井開催〈6.19～20〉

23　佐佳枝ポンプ場竣工〈6.11〉、福井市体育館リニューアル〈6.18〉、韓国水原市友好都市提携10周年の記念式典に参加〈10.5～10.9〉、プロボクサー清水智信選手に市民栄誉賞を贈呈〈10.29〉

24　第六次福井市総合計画がスタート〈4.1〉、北陸新幹線の金沢－敦賀間着工〈8.19〉、福井を舞台にした映画「旅の贈りもの　明日へ」が全国公開〈10.27〉、福井駅西口全体空間デザイン基本方針の作成〈12.28〉

25　独立行政法人宇宙航空研究開発機構（ＪＡＸＡ）との宇宙教育及び普及啓発活動に関する協定締結〈10.5〉、米国ニューブランズウィック市姉妹都市提携30周年記念福井市団派遣〈10.8～10.12〉

26　市民憲章制定50周年記念大会〈6.28〉、中央卸売市場関連商品売場棟「ふくい鮮いちば」の一般開放を開始〈11.8〉

27　グリフィス記念館開館〈10.10〉、一乗谷朝倉氏遺跡の年間観光客100万人達成とテーマ曲「悠久の一乗谷」完成

28　福井駅西口広場の供用開始とえちぜん鉄道・福井鉄道相互乗り入れ、福井駅西口再開発ビル「ハピリン」開業〈4.28〉

29　第七次福井市総合計画がスタート〈4.1〉、福井しあわせ元気国体競技別プレ大会の開催〈6.17～11.26〉

30　豪雪（市内積雪147㎝）〈2.7〉、「福井しあわせ元気」国体・障害者スポーツ大会の開催〈9.29～10.9、10.13～10.15〉中核市指定に係る政令の公布〈10.31〉

31　福井駅周辺土地区画整理事業が26年をかけて完了〈3.31〉、中核市へ移行、ふくい嶺北連携中枢都市圏を形成〈4.1〉

令和元　一乗谷朝倉氏遺跡などの文化財を「石」をテーマに紡いだストーリー「400年の歴史の扉を開ける旅～石から読み解く中世・近世のまちづくり　越前・福井～」が日本遺産に認定〈5.20〉

2　イメージロゴ「福いいネ！」を制作〈7.27〉、世界的大流行の新型コロナウイルス感染症対策を実施

3　記録的大雪（市内積雪107㎝）〈1.8～9〉、新型コロナワクチン接種を実施、大雨による市西部での被害発生〈7.29〉、東京オリンピック・パラリンピックのスロベニア共和国選手団事前キャンプ受入れ〈7.11～8.1、8.13～24〉、東京オリンピック2020金メダリストでプロ野球選手の吉田正尚氏と栗原陵矢氏に市民栄誉賞を贈呈〈9.30〉

4　第八次福井市総合計画がスタート〈4.1〉

5　オール福井ロケで制作された映画「おしょりん」が全国公開〈11.3〉

6　北陸新幹線福井開業＜3.16＞

位　置　と　地　勢

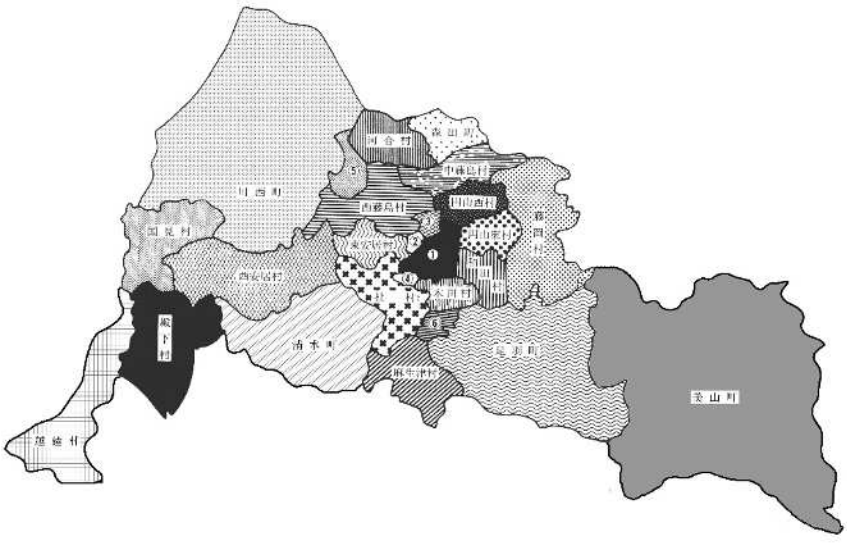
福井市は、日本の中央部、中部地方の日本海に面した福井県の県都で、福井県の北部、福井平野の真ん中に位置しており、（東経136度13.1分、北緯36度3.5分）西方は山岳地帯（国見岳）を隔てて海水浴場と岩石美で有名な越前海岸公園に臨んでいるが、その他はおおむね平坦地で、この間を九頭竜、足羽、日野の３大河川が市内で合流し北方三国港に注いでいる。北方は坂井平野が開け坂井市、あわら市方面と相対し、東方は吉野嶽を越えて永平寺町、勝山市、大野市方面を臨み、南方は鯖江市、越前町等に隣接している。

本市の中心である福井駅は、東京駅－敦賀駅間を走る北陸新幹線の停車駅となっている。市街地の中央部をハピラインふくいが縦貫し、福井駅を起点にJR越美北線が東方に走り、えちぜん鉄道、福井鉄道が市内を走っている。また、国道８号（新潟市～京都市）、158号（福井市～松本市）、305号（金沢市～南越前町）、365号（加賀市～四日市市）、416号（福井市～小松市）を初め、主要地方道等が縦横に走り、県の政治、経済、文化の中心地となっている。

福　井―――東　京
　２時間 51 分　（かがやき）
福　井―――名古屋
　１時間34分　（かがやき・特急しらさぎ・ひかり）
福　井―――大　阪
　１時間44分　（つるぎ・特急サンダーバード）
福　井―――名古屋
　２時間10分　（北陸・名神自動車道）
福　井―――大　阪
　２時間30分　（北陸・名神自動車道）

市　域　の　推　移

本市は、明治 22 年市制施行当時、面積 4.43 ㎢で発足したが、その後、市勢の発展とともに市域を広げ、現在 536.37 ㎢に至っている。



（凡　例）

①	市制施行
②	東安居村三ツ橋
③	西藤島村田原下･牧島
④	社村小山谷
⑤	大安寺村六部落
⑥	足羽村五部落

市域の変遷状況

年　月　日	合　併　町　村　名　等	面　　積	累計面積
明治22．4．1	市制施行	4.43㎢	4.43㎢
昭和 6．4．1	足羽郡東安居村三ツ橋	0.44	4.87
11．5．1	〃　和田村	5.71	10.58
11．10．1	〃　木田村	6.31	16.89
14．8．1	〃　東安居村	5.45	22.34
16．4．1	吉田郡円山東村	4.13	26.47
17．5．5	〃　円山西村	6.40	32.87
23．6．1	〃　西藤島村田原下・牧島	1.16	34.03
24．4．1	足羽郡社村小谷山	0.58	34.61
26．3．30	吉田郡西藤島村	11.10	45.71
29．4．1	足羽郡社村	14.46	60.17
29．8．1	丹生郡西安居村	28.95	89.12
30．3．19	吉田郡中藤島村	7.61	96.73
31．4．10	足羽郡足羽村５集落（大町・大町別所・江端・大島・下荒井）	2.43	99.16
32．4．1	坂井郡大安寺村６集落（南橲原・北橲原・田ノ谷・四十谷・岸水・天菅生）	4.60	103.76
32．5．1	吉田郡河合村	8.62	112.38
32．10．1	足羽郡麻生津村	15.61	127.99
34．2．1	丹生郡国見村	19.60	147.59
36．10．1	吉田郡藤岡村	19.35	166.94
38．4．1	丹生郡殿下村	25.40	192.34
42．5．17	坂井郡川西町	80.72	273.06
42．7．30	吉田郡森田町	6.13	279.19
43．5．1	鯖江市との境界変更	―	279.19
46．9．1	足羽郡足羽町	60.05	339.24
48．11．1	鯖江市との境界変更	△ 0.02	339.22
53．4．20	春江町との境界変更	―	339.22
53．4．20	三国町との境界変更	―	339.22
54．3．1	松岡町との境界変更	―	339.22
57．7．6	福井港内公有水面埋立て	0.36	339.58
58．6．24	〃	0.70	340.28
59．1．17	〃	0.03	340.31
61．3．1	三国町との境界変更	―	340.31
61．3．1	春江町との境界変更	―	340.31
63．3．1	鯖江市との境界変更	―	340.31
63．6．1	〃	―	340.31
平成元．12．25	三国町との境界変更	―	340.31
3．10．1	朝日町との境界確定	0.29	340.60
6．3．3	三国町との境界変更	―	340.60
8．2．9	福井港内公有水面埋立て	―	340.60
14．5．15	清水町との境界変更	―	340.60
18．2．1	足羽郡美山町、丹生郡越廼村、丹生郡清水町	195.57	536.17
22．2．1	蒲生町、茱崎町における公有水面埋立て	0.02	536.19
22．7．16	小丹生町における公有水面埋立て	0.00	536.19
26．10．1	国土地理院の面積計測方法変更	0.22	536.41
27．12．11	蒲生町、茱崎町における公有水面埋立て	―	536.41
29．8．22	坂井市との境界変更	―	536.41
令和4．4．1	電子国土基本図の更新	0.01	536.42
5．7．1	電子国土基本図の更新	△ 0.05	536.37

人　　口

1　世 帯 と 人 口

年　　次	世 帯 数	人　　口			備　　考
		男	女	計	
明治22年	9,235	19,400	20,463	39,863	市制施行時（４月１日）
大正９年	13,273	27,601	29,038	56,639	第 １ 回国勢調査
14年	14,229	29,002	30,941	59,943	第 ２ 回　〃
昭和５年	14,569	31,825	32,374	64,199	第 ３ 回　〃
10年	17,151	37,444	37,829	75,273	第 ４ 回　〃
15年	22,904	44,907	49,688	94,595	第 ５ 回　〃
22年	18,340	37,236	40,084	77,320	第 ６ 回　〃
25年	22,897	48,735	51,956	100,691	第 ７ 回　〃
30年	28,171	60,069	65,235	125,304	第 ８ 回　〃
35年	35,120	71,739	78,084	149,823	第 ９ 回　〃
40年	42,092	81,546	88,090	169,636	第 10 回　〃
45年	52,718	96,368	104,141	200,509	第 11 回　〃
50年	63,220	111,612	119,752	231,364	第 12 回　〃
55年	69,218	116,562	124,400	240,962	第 13 回　〃
60年	73,135	121,516	128,745	250,261	第 14 回　〃
平成２年	76,944	122,777	129,966	252,743	第 15 回　〃
７年	83,384	125,015	130,589	255,604	第 16 回　〃
12年	85,380	122,987	129,287	252,274	第 17 回　〃
17年	93,694	130,834	138,310	269,144	第 18 回　〃
22年	97,446	128,692	138,104	266,796	第 19 回　〃
27年	99,872	128,892	137,012	265,904	第 20 回　〃
令和２年	104,470	127,867	134,461	262,328	第 21 回　〃
３年	105,347	126,038	134,284	260,322	令和３年４月１日現在
４年	105,638	125,204	132,994	258,198	令和４年４月１日現在
５年	106,722	124,419	132,016	256,435	令和５年４月１日現在
６年	107,583	123,401	131,101	254,502	令和６年４月１日現在
７年	108,654	122,499	130,167	252,666	令和７年４月１日現在

第18回国勢調査結果は、旧美山町、旧越廼村及び旧清水町の値を含む。

2　産業分類別15歳以上就業者数

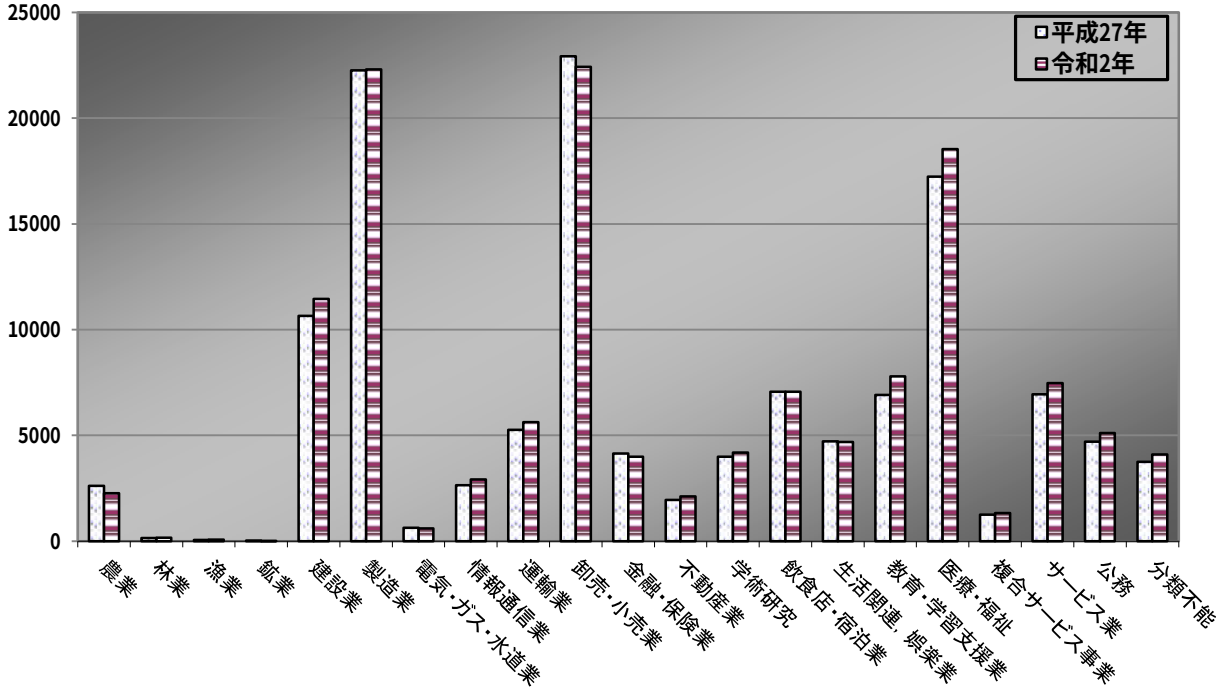
（令和２年国勢調査）

産　　業	就業者数（人）	割合（%）	産　　業	就業者数（人）	割合（%）
第１次産業	2,504	1.92	**第３次産業**	93,861	72.12
農業	2,269	1.74	電気・ガス・熱供給・水道業	609	0.46
			情報通信業	2,921	2.24
			運輸業、郵便業	5,624	4.32
林業	165	0.12	卸売・小売業	22,424	17.23
			金融・保険業	3,986	3.06
			不動産業、物品賃貸業	2,120	1.62
漁業	70	0.05	学術研究、専門・技術サービス業	4,182	3.21
			宿泊業、飲食サービス業	7,058	5.42
第２次産業	33,779	25.95	生活関連，娯楽業	4,687	3.60
			教育、学習支援業	7,790	5.98
鉱業	18	0.01	医療、福祉	18,536	14.24
			複合サービス事業	1,330	1.02
建設業	11,456	8.80	サービス業	7,476	5.74
			公務	5,118	3.93
製造業	22,305	17.13	**分類不能の産業**	4,100	
			合　　計	134,244	100.00

割合は合計数から「分類不能の産業」の数を除いて算出。

3　産業分類別15歳以上就業者数

（令和２年国勢調査）



名　誉　市　民

市民又は市に縁故の深い人で、広く社会の進展、文化の興隆、その他公共の福祉に貢献し、その功績が卓絶し、かつ、郷土の誇りとして深く市民から尊敬されている人に対し、福井市名誉市民の称号を贈り、その栄誉をたたえるものである。

市は、次の７氏に名誉市民の称号を贈呈している。

故　雨田 外次郎(光平)氏
「美術家・箏曲京極流宗家」
足羽１丁目出身
（昭和54年５月23日決定）

大正５年に東京美術学校彫刻科を卒業し、昭和６年に箏曲京極流宗家を継いだ。その後、彫刻、ハープ演奏の研究で渡米して活躍し、昭和20年に帰郷。昭和29年には欧州11か国を歴訪し邦楽を広く紹介した。

昭和48年には国の無形文化財（箏曲）に指定されたほか、県の文化財専門委員、福井大学講師を務めるなど、郷土の文化の振興に尽くした。

（昭和43年　勲五等双光旭日章受章）
（昭和60年11月14日死去）

故　南　部　陽一郎　氏
「物理学者」
町屋３丁目出身
（昭和54年５月23日決定）

昭和17年に東京帝国大学理学部を卒業。昭和25年に大阪市立大学教授になり、昭和27年には米国プリンストン大学に研究生として招かれた。昭和31年からシカゴ大学教授。40年以上の永きにわたり理論物理学の発展に尽力しており、素粒子論の研究では世界の第一人者として広く知られている。

平成20年に「自発的対称性の破れ」の発見により、ノーベル物理学賞を受賞した。

（昭和53年　文化勲章受賞）
(平成20年　ノーベル物理学賞受賞)
（平成27年７月５日死去）

故　藤　田　良　雄　氏
「天文学者」
照手４丁目出身
（昭和54年５月23日決定）

大正10年に福井市足羽小学校を卒業後、昭和６年に東京帝国大学を卒業した。在学中は天文物理学を専攻し世界各地に赴き観測を続け、昭和14年には理学博士の学位を取得、昭和30年には「低温度の分光学的研究」で日本学士院恩賜賞を受賞した。

世界の天文学界の頭脳として活躍する一方、福井大学の講師として、また市の自然史博物館や市内の学校で指導され、郷土の学術振興にも大きく貢献した。

（平成８年　文化功労者）
（平成25年１月９日死去）

故　天　谷　直　弘　氏
「経済研究家」
寮町出身
（平成元年４月23日決定）

昭和23年に東京大学法学部を卒業し、商工省（現在の経済産業省）に入省した。昭和56年に退官するまでの間、基礎産業局長、資源エネルギー庁長官、通商産業省審議官を歴任し、エネルギーの対応策に尽力した。

また、福井市をはじめ国内外の産業、経済の諸問題の解決に中心的な役割を担った。さらに、電通総研初代所長として、また、国際経済交流財団会長として活躍した。

（昭和58年　石橋湛山賞受賞）
（平成６年８月30日死去）

故　奥　梅尾(むめお)　氏
「婦人活動家」
田原２丁目出身
（平成元年４月23日決定）

大正５年に日本女子大学家政科を卒業し、大正９年に婦人活動をする中で、新婦人協会を結成した。また、大正12年には職業婦人社を設立するなど、婦人運動の草分けとなって勤労婦人の啓蒙活動に取り組んだ。

昭和22年に参議院議員に初当選、以後連続２回当選し３期18年間議員として女性の地位向上に大きく貢献した。また、昭和23年に主婦連合会を設立し会長として活躍した。

（昭和40年　勲二等宝冠章受章）

（平成９年７月７日死去）

故　大　武　幸　夫　氏
「１３代福井市長」
中央３丁目出身
（平成６年１月28日決定）

昭和21年に名古屋帝国大学医学部を卒業し、昭和22年に福井市に衛生技師として奉職する。昭和49年に退職するまでの間、厚生部長、総務部長を歴任し、医師の立場から市衛生行政の礎を構築するとともに、円滑な行政運営の推進に寄与した。

昭和49年福井市長に初当選し、以来連続５期20年にわたり市長として、都市開発、教育文化、国際交流の推進等、多面にわたって福井市の繁栄と発展に尽力するとともに、北信越市長会長、全国市長会副会長等の要職を歴任し、地方自治の発展に寄与した。

（平成６年　勲三等旭日中綬章受章）

（平成６年１月28日死去）

故　白　川　静　氏
「中国古代文字文化研究家」
大手3丁目出身
（平成16年12月22日決定）

明治43年に福井市佐佳枝中町に生まれ、少年時代を福井市で過ごす。昭和18年に立命館大学を卒業後、同大学予科教授に就任、昭和23年に処女論文「卜辞の本質」を発表し、昭和29年に同大学の教授に就任した。その後次々と論文を発表するとともに、三部作とも言われる「字統」「字訓」「字通」を刊行した。

中国最古の文字資料である「甲骨文」を研究し、定説を覆す「白川文字学」を提唱、文字の成り立ちの研究を通じて古代社会や生活様式、人々の世界観を解き明かした。

（平成16年　文化勲章受章）

（平成18年10月30日死去）